

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 / 1階,2階)

事業所番号	2790300350		
法人名	特定非営利活動法人 ベルビー		
事業所名	グループホーム ポンビー		
所在地	寝屋川市木屋町6-16		
自己評価作成日	令和3年12月22日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に明るく過ごして頂けるグループホームを目指している 家族様が面会に来られた時に、安心して頂けるように心がけている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は、NPO法人「ベルビー」で、大阪北部地区の福祉移送、介護保険サービス、障害福祉サービスなど幅広く事業を行っている。当事業所は、2018年3月に名称を「ポンビー」(フランス語で良い暮らし)として開設し、近隣に保育園やスーパーがあり、田畑も多い住宅街にある。入口にある掲示板には、事業所案内、レクリエーション日程、献立表などを掲示し、近隣住民や通行人に事業内容を紹介している。施設内は、あちらこちらに絵画が飾られ、床は木目調の床暖房になっており落ち着いた空間になっている。管理者は3か月前の就任で、地域との関係づくりや家族との面識が充分とは言えない状況だが、利用者個々に作成している「コンタクトレポート」(アセスメントシートの拡大版)の活用や、自粛中の外出支援などの再開に向けて家族、地域、職員と連携を図りたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、全スタッフと共有して実践につなげている。	理念は「明るく、穏やかで安心して暮らせる家庭的な環境を提供します。利用者の個性を大事に、心を込めたサービスを提供します。地域に信頼され、ふれあいの場をもてる施設を目指します。」とし、玄関と各フロアの職員や訪問者の目に付く場所に掲示している。今後職員への理念の定着を図るためスタッフ連絡帳や業務日報への貼り付けを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園と交流を持ち、木屋冬まつりに参加している。 本年はコロナ禍で自粛している	現在、コロナ禍で「木屋冬まつり」などの地域行事が中止になり、隣接保育所との交流や昨年実施した近くの神社への初詣なども自粛している。地域情報は地域包括支援センターなどからの把握に努めているが、ほとんどがファックスでの把握になっている。コロナ収束時には、地域住民や自治会と連携し交流を深める予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かしてはいるが、認知症の方の気持ちになり、実践を通じて積み上げてきた行動をとっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で色々な意見を貰いサービス向上に活かしている	会議は2か月毎に、利用者・家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、地域代表者、法人代表及び職員で開催している。コロナ禍では参加メンバーを縮小しファックスなどで事前に意見・要望を把握して会議に反映している。会議録は玄関での掲示のほかに家族へ送付している。また、メンバーが参加し易い開催方法を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今回の外部評価を受けるにあたり、令和4年度中にもう一度受ける事を確認致しました	寝屋川市の高齢介護室や保護課とは必要書類の提出を始め、日常的に事業所の運営等に関して情報を得ている。現在は、市のホームページ「ケア倶楽部」からの情報収集や、ファックスの活用が殆どになっているが、利用者や職員へのコロナワクチンの接種や抗原検査キットの送付に対する相談や調整などで協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1階の拘束会議を開催し、身体拘束をしないケアの共有をしている	「身体拘束適正化のための指針」を作成し、「身体拘束についての会議(適正化委員会)」を、年3回と必要都度開催している。職員への研修は書面やビデオ教材を活用し、受講した感想を業務報告書に記入して法人へ報告している。身体拘束ゼロを基本にしているが、尿バルーン抜去防止のため、家族の同意を得てミトン使用した例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフ虐待防止に努めている 開業時から虐待の事例は起こっていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ってはいないが、成年後見人を立てておられるご利用者はおられます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時までの事前ご相談を納得いくまで説明させて頂き契約につないでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望があれば会議の場を設けている	利用者の意見・要望は日常のかかわりの中から把握し、家族からは電話や面会時に把握に努めている。面会を自粛していることから意見・要望は殆ど無いが、有れば職員間で話し合い要望に沿って対応するようにしている。また、コンタクトレポート(アセスメントシートの拡大版)を作成し、職員間の情報共有と日常のケアに活用している。	コロナ禍で、家族と利用者の面会を自粛している状況であるが、利用者の暮らしの様子を家族に伝え、安心してもらう工夫が必要である。オンライン面会の対応や、利用者の事業所内の様子(写真やコメント)を掲載した「便り」を家族へ送付するなど、具体的な対応を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議の場を設けて、週1回のミーティングを行っている	管理者は就任して3か月であり、積極的に職員への声掛けやミーティング時に意見・要望の把握に心掛けている。把握した内容は職員ミーティングで話し合い、出来る範囲で反映に努めている。高齢職員の負担を軽減するために応援体制を敷いたり、賃金や有休休暇の取得について法人に取り次いだ例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験者であっても第一研修80h第二研修80hを受けてもらい、勤務状況を把握し向上心を持ってもらえるように昇給をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からスキルアップする様に研修の情報は常に伝えてもらい前進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寝屋川市のグループホーム交流会に参加しサービス向上を目指している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が安心して暮らしていけるように、一日も早く信頼関係を築けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階で家族が金銭面の不安などの相談を受け、信頼関係を築く様に務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で支援の希望を聞き出し、支援の見極めをし、サービス利用の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「明るいグループホーム」を目指している事をスタッフで共有し、同じ立場で関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が不穏になられて、電話かけて欲しいと仰る時には、遠慮なく電話を入れて共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人に会いたいとか、馴染みの場所に行きたいとかは仰る場面はないが、身内に会いたいと仰る時があるので家族に電話して対応している	日常のかかわりの中から、馴染みの場所や人を把握するように心掛けている。以前は家族同行でお墓参り、法事、外食等に出かけていたが現在は中止している。コロナ禍では、家族や馴染みの人との電話の取次ぎや、お便り(手紙、はがき)を送る支援などを行い関係が途切れないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良くして貰いたいです、ぶつかる利用者おられるので、全利用者が輪になる支援が必要である		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了の利用者はおられませぬ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が若いころの人生観や得意だった事を聞き出し、日頃のサービスに努めている	事業所独自に作成したコンタクトレポート(食べ物・嗜好、好きな事・趣味・やってみたい事、利用者の人生の振り返り、QOL評価など)を活用し、利用者一人ひとりの思いや要望を職員間で共有するとともに、日々のかかわりの中で気付いたことや把握した内容をスタッフ連絡帳に記載し、利用者の日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを開始する前は、どのようなサービスや暮らしをされていたかを全職員で把握し、少しでもボンビーに速くなれて頂くように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集中するものを見つけ出し、時間を持って余さないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフでミーティングを行い、どのようなサービスが必要か協議し、計画書を作成している	入居時に、利用者・家族から生活歴や要望を詳細に把握し、医師からの助言を得て長期計画1年、短期計画半年の支援目標を作成し、利用者の同意を得ている。利用者の状態の変化や家族からの要望等があれば、スタッフミーティング(モニタリング)を都度開催し、スタッフ連絡帳による情報共有化と介護計画へ反映し日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、経過記録、スタッフ連絡帳により介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況を把握しながら、支援に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮できるように、ボランティアの力を借りた取り組みをし、スタッフでの上下肢運動をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は、隔週で往診に来てもらっている 歯科の往診やリハビリの往診も希望により来てもらっている	今までのかかりつけ医は精神科(1名)、内科(1名)が家族同行のもとに受診している。協力医療機関から内科が月2回、歯科が週1回の訪問診療がありほぼ全員が受診している。リハビリの往診が週1回あり、利用者は週替わりでマッサージを受けている。看護師が週2回訪問して薬の管理、爪切り等の健康管理を行い連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ボンビーに常勤看護師はいないが、非常勤看護師や必要に応じて契約後、訪問看護師に往診してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、サマリーにより情報を提供し、退院の際はカンファレンスにより情報交換し受け入れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の同意書を貰い、終末期に向けたあり方についてスタッフ・家族と話し合い支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における看取り指針」を示して事業所としての考え方、具体的な支援内容の説明を行い同意を得ている。医師(24時間ONコール)から回復の見込みがないとの判断のもとに再度終末期医療についての説明を行い同意を得る準備は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に初期対応の訓練を定期的に行ってはいるが、急変時はかかりつけ医に電話を入れるか、管理者に電話を入れるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1階の総合訓練を行い、災害時の意見交換会に参加し協力体制をきずいている。前回の総合訓練は水害を想定し2階へ避難をしました	今年は消防署立ち合いの下に火災を想定しての訓練が8月に行われている。2月には夜間想定自主訓練、1級河川が近くにあることからハザードマップに基づいた水害想定避難訓練も計画中である。	事業所は2階建てであり台風等水害時には、2階まで水が迫ることが予想される。近隣の小学校への避難が必要だと考えられ、地域の自治会や民生委員と連携を強化していく事が求められる。さらに水・食料・コンロ等の備蓄をそろえて体制の強化を図られることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないように一人ひとり人格を尊重するようにしている	接遇マナー、プライバシー保護の研修は、法人からビデオ研修を受けてレポートを提出している。職員は利用者には、“さん”呼び、“です・ます”口調とし、羞恥心への配慮としてトイレ誘導時には耳元で小さな声等の対応を心掛けている。重要書類は事務所の書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中には自分の思いを表現できない方もいらっしゃるので、スタッフから声掛けをして聞き出している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、昨夜眠れたか聞き出し昼夜逆転にならない程度に休んでもらう様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者との話し合いにより、3か月に1回のペースで訪問美容に来てもらい、入浴時や起床時は洋服を選んで貰う様にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは一緒にしているが、調理はレカピターレからの献立を盛り付けている。食事中は皆様と一緒に召し上がっている	法人系列の配食部門(レカピターレ)の献立表のもとに食事が配達されて、各フロアではお味噌汁が手作りされている。アレルギーのある利用者には代用食、お誕生日にはケーキ、お正月にはおせち、おやつレクレーションにはお汁粉等季節の食材を活かした献立が提供されている。利用者は盛り付け、テーブルふき等職員介助の基に共に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた食事量を提供し、体重の増減を観察しながらアレルギーのある利用者には、別メニューを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で口腔ケアのできる方は、居室にてされる方もおられますが、介助が必要な方は、フロアの洗面台でして頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを定期的に行い、トイレ誘導をしている。排泄の自立支援を行っているが、失禁や便失禁が多くなっている。弄便の方もおられる	排泄は基本立位の取れる利用者にはトイレ誘導よりの排泄介助としている。リハビリパンツ着用のもとにトイレ誘導することにより2/3の利用者がトイレでの排泄が可能となっている。夜間は3時間ごとの見回りにより安眠重視としながらおむつやパッド交換等の支援体制がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給が少ない方には声掛けや介助での補給をもらい、慢性便秘症の方にはマグミットや下剤の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は入浴表による支援であるが、利用者の希望に応じて翌日に入浴してもらったりの支援はしている。夜間時はスタッフの関係で控えてもらっている	入浴は基本週2回の午前中を目安にしている。浴室は各フロア共2方向介助の個浴槽と機械浴槽が設置されており、当日の体調や介護度に合わせて自由に選択が可能となっている。入浴拒否の利用者には無理強いすることなく、時間を変えたり人を変えたりの柔軟な支援体制がある。利用者の中には職員とのおしゃべりを楽しむ方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの個室があるので、不眠や体調不良であれば休んでもらっている 夜間時は帰宅願望の方には安心して休んでもらう様に努力している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は非常勤看護師がし、処方箋を確認して把握し服薬してもらう様にしている 主治医に相談し、不必要な薬は外してもらい必要な薬は相談して処方してもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀やパチンコで気分転換をしてもらう利用者がおられ、他の方には玄関先のベンチで気分転換してもらっている 仕事がしたいと仰る方には家事手伝いしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなど出かける事が多かったが、コロナウイルスにより自粛している	コロナ禍で中止となったがそれまでは、スーパーへの買い物、ドライブを兼ねてお花見や紅葉狩り等車での遠出を楽しんでいた。今は事業所の周りをまわる散歩、事業所玄関先でいちご、パンジー、ビオラのお花の水やりを、お天気をみながら週1~2回の間隔で行われ、ベンチで談笑を楽しんだりしながら職員共々外気浴を兼ねた気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方と、できない方がおられるので、できない方は預かっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話で話をしたいと仰る時があり、電話の取次ぎをさせて頂いている 手紙はお返事を出される時にポストに投函させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように日差しがきつい時は、カーテンをしめるなどの配慮をしている 視覚障害の方がおられ、キッチンの換気扇が水の音に聞こえるらしく、最小限にしている	共用空間はゆったりとした雰囲気の中で床暖房が敷かれ、テレビの前には2人掛けのソファ(2脚)・1人掛け(1脚)が配置され、壁には四季ごとに折り紙を飾り付け、加湿付空気清浄器が2台配置されている。利用者の中には近隣の理事長宅で麻雀を楽しんだり、カラオケを楽しんでいたがコロナ禍の中で中止となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後の時間にソファに座り、皆さんで過ごせる居場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご愛用されていた物を、自由に持って来てもらっている ご自身が部屋を飾ったり出来る支援をしている	居室にはベッド、防災カーテン、クローゼット、整理タンス、洗面台、エアコンが備え付けられている。利用者はCD付ラジオ、テレビ、家族写真等家族と相談して思い思いに居室に持ち込んで、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に3か所トイレがあるが、場所のわからない利用者が多く表示を大きくしているが案内をしている 出来ることはフロアで手伝って頂いている		